
地域における健康危機管理者に対する災害健康危機管理に係る人材育成方法の検討

(橘とも子ほか、日本集団災害医学会誌 15: 187-196, 2010)

2012年6月8日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

地域における健康危機管理対策の体制は、平成13年度の「厚生労働省健康危機管理基本指針」に示された基本的枠組みに基づき、国および地域の役割分担によって構築されている。健康危機管理における地域の拠点は保健所が位置付けられており、平成17年度に厚生労働省において地域保健対策検討会がなされた。検討会の中間報告では、保健所が地域の災害健康危機管理拠点として適正かつ妥当に機能し、地域の災害健康危機管理体制の強化を図るためには、社会システムや機器等のインフラ整備のみならず人材基盤の向上が不可欠であると示された。

科学院は地域の健康危機管理者を対象として講義+災害現場応急救護所プログラムが内容の健康危機管理保健所長研修を開始した。本研究ではこの研修評価結果に基づいて災害健康危機への対策体制強化に必要な人材育成方法について検討した。

⇒受講者から「災害健康危機で保健所に生じるイメージがとらえにくかった」といった意見が寄せられ、受講者が災害の仮想体験に基づいて保健所の役割について検討することのできるプログラムが必要だと考えた。

平成20年度は災害シミュレーション演習を含む自然災害対策研修プログラムの導入を行い、実践能力のよりいっそうの向上を目指した。災害シミュレーション演習を含む自然災害対策研修プログラムでは、習得すべきコンピテンシー（実践能力）を検討し、これに基づいたプログラムの立案を行った。研修評価には受講者に研修満足度評価および学習理解度・到達度評価を回答してもらった。

評価結果に基づき健康危機管理者に対する人材育成について考察すると、

- 1, 多くの災害健康危機管理者にとって災害発生時の具体的な役割や機能をイメージすることが容易ではなく、より実践的な人材育成方法の活用が求められる。
- 2, 地域における災害健康危機管理体制の充実・強化には、市町村防災部門のみならず災害健康危機管理にかかわるすべての組織間における連携が不可欠であると考えられ、地域の災害健康危機管理拠点である保健所単位において、すべての組織が平常時から地域の実状に応じた企画・立案・実施・評価に参加することが求められる。

日本集団災害医学会では、年1回程度セミナーを開催し、災害医療関係者を対象として災害医療研修を行っている。これらの専門的研修を修了した災害医療関係者が、保健所をはじめとするさまざまな防災部門と連携し、参加型の災害研修や訓練を企画・立案することは地域単位での災害健康危機管理の質的向上につながるのではないかと思われる。この場合、コーディネーターとして重要な役割を担うべきは保健所等の機関と考えられ、より効果的な人材育成方法論の検討を図るべきであると考えられる。